

宮崎にもあったんだ！
ハツケシ!
 特集2 **江戸の足跡**

江戸時代に日本地図を作った伊能忠敬の足跡が、宮崎に残されていることをご存じですか？ そんな江戸時代の宮崎にまつわる文化財と、知られざる物語を紹介します。

[問]文化財課 ☎47-8012 FAX47-8202

いのうず
伊能
 困
 って？



伊能図とは、伊能忠敬が中心になって日本全土の測量を行い、1821年に完成した日本地図のこと。現在の地図と比べても極めて誤差が小さく精密な地図になっています。正本は存在しませんが、アメリカでの模写図発見など、平成になってその全容解明が進んでいます。今年2月に宮崎平野が描かれた模写図のコピーが海上保安庁宮崎海上保安部から市に寄贈され、現在は学習資料として保管しています。

宮崎では佐土原や
 内海に泊まりました



いのう
 た
 だ
 た
 か
**伊能
 忠敬**

現在の千葉県に生まれ、商人として成功の後、49歳で隠居。50歳から学び始めた天文・暦学がきっかけで地図作りを始め、幕府の命を受けて約17年を掛けて日本全土を測量し、日本地図の作成に大きく貢献しました。

【ミステリー①】
 地図上に残る謎の記号。
 その意味は？

文化財課 井田 篤

伊能は、約17年に及ぶ測量の中で、宮崎に2度足を運んでいます。

交通の要所だった佐土原には一ツ瀬川河口に港の印を書いたり

現在の宮崎神宮には神社の印

中村町や城ヶ崎には宿場を表す○印が見られます。

それではクエスチョンです。☆(星)印は何を表しているでしょう。

正解は「天体観測をした場所」です!

伊能忠敬の率いる測量チームは、夜になると天体観測をして各地の緯度も測定しました。北極星の見える位置の誤差で緯度を算出したそうです。

【ミステリー②】
 市が誇る観光地。
 伊能が訪れた時の名は？

佐土原の「下田島」や「新別府」なども今と同じですね。

伊能らが主に海沿いや街道を歩いて作成した伊能図。

地図には現在もそのまま使われている地名が多く書かれています。

それではクエスチョンです。青島は、当時、何と呼ばれていたでしょう。

一方、当時と今で異なるものもあります。大淀川は、当時は「赤江川」でした。

正解は「淡島」です!

伊能図には「淡島」と記されています。青島は他にも古くは「齒染(した)の浮島」や「鴨就(かもつく)島」などと呼ばれていたそうで、歴史の長さを感じさせますね。

【ミステリー③】
 伊能が日記に書いた
 青島にあるものとは？

伊能は青島に渡り、渡り幅や外周も測量しました。

それではその「淡島」、現在の「青島」からラストミステリーです!

それではクエスチョンです。今も青島神社の境内にあるもので、伊能が日記に書いたものとは何でしょう。

日記には青島神社や、3本の大きなピロウ樹があったことなどを書いています。

正解は「玉の井」です!

社務所のそばにある玉の井は、神話の中で山幸彦が豊玉姫と出会ったとされている場所。伊能は「海の近くであるが汐(=海水)も入らず、名水であるという」と書いています。

ご要望いただければ、地域や学校で出前授業を行っています。お気軽にお問い合わせください!

文化財課 指導主事 **田中 信宏**

西洋の解剖学書の翻訳本 解体新書

江戸時代にオランダから持ち込まれた解剖学書「ターヘルアナムトミア」を、医者 杉田玄白らが翻訳。高岡に残る重訂版は、幕末に高岡の武士が入手したものと考えられています。



江戸時代の武家の決まりごと 武家諸法度

江戸幕府が大名たちを統制するために出した法令。文武両道の奨励や、新しく城を築くことの禁止などを定め、違反者は厳しく罰せられました。高岡町で発見され、現在は天ヶ城歴史民俗資料館に保管されています。



実はこういうものも宮崎市にあります

ほかにも、教科書に登場する、あっと驚く史料が存在します。